

FDC の分析

学生番号 1J21F179 平賀謙次郎

2023 年 5 月 25 日

1 序論

本レポートでは、二人の会話の発話長について比較し、それぞれの特徴について考察する。

2 方法

分析対象であるデータは、早稲田大学言語情報科学ゼミで収集された、FDC と呼ばれるものである。今回分析するのは男子大学生（MIS）と、女子大学生（FKY）の二人の対話で、「緑」というキーワードから 5 分間自由に話してもらっている。このデータを分離し、発話長について python を用いて要約統計量を出した。また、平均値の差の検定をするための統計的分析を行った。

3 結果

要約統計量やグラフについて、以下のようになった。また、二人の発話長に関して有意水準 0.05 で平均値の差の検定を行ったところ、有意差が見られた。 $(t(193)=2.647, p=0.008781)$

表 1 データの統計情報

統計量	FKY	MIS
個数	99	96
最小値	0.2391	0.2426
最大値	8.175	5.603
平均値	1.779	1.294
中央値	1.337	0.9095
第 1 四分位数	0.716	0.6010
第 3 四分位数	2.244	1.780
分散	2.209	1.019
標準偏差	1.486	1.009

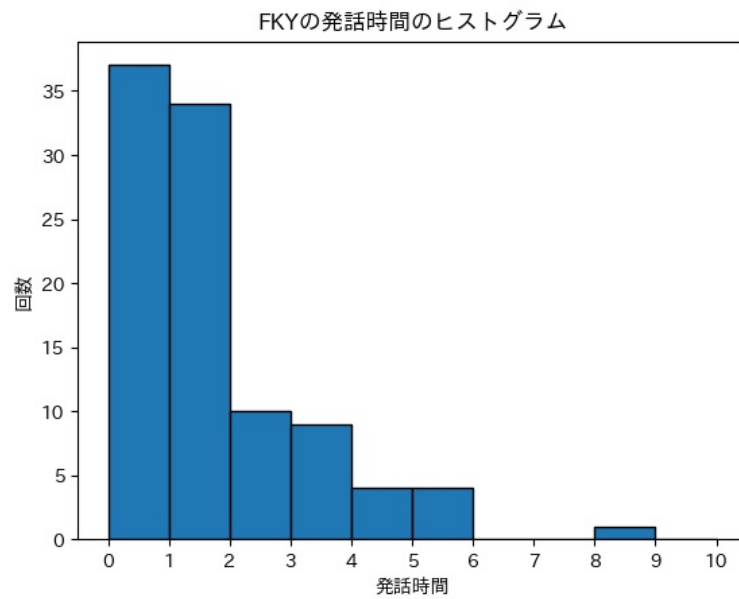


図 1

4 考察

表 1 より、最大値や平均値から FKY の発話時間は MIS の発話時間よりも長いということがわかる。これは、平均値の差の検定から有意に差があると言える。また、図 1、図 2 を比べると FKY と MIS の発話長の最も大きな違いは 0-1 秒の発話が、MIS の方が圧倒的に多いことが挙げられる。

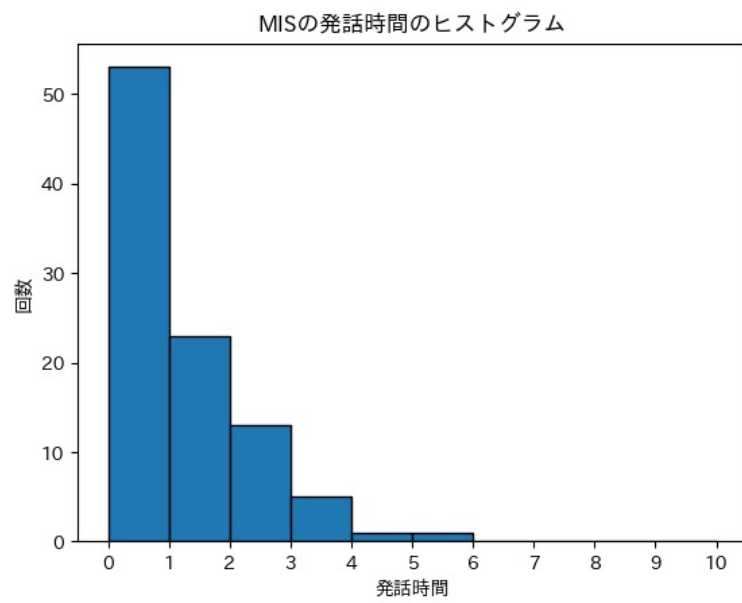


図 2

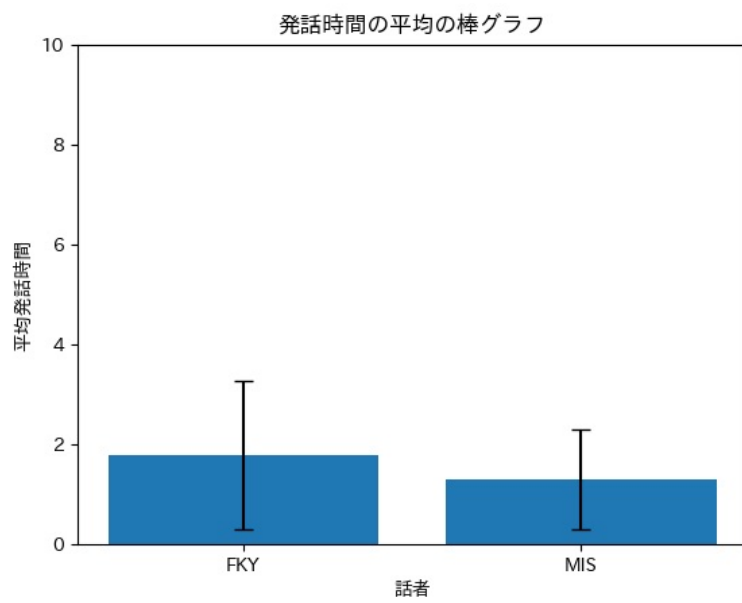


図 3